

# 当院で治療された患者様の声

【岩田英二様】

※患者様の許可を得て、原本・原文のまま掲載いたします。転写禁

## 頸椎ヘルニア顛末記

後ろを振り返るとき、左と右とでは明らかに左の方が楽。また、左足と右足、自分では左足に負担（体重）がかかっている感覚なのに、並べた体重計で測ると実は逆の右足。だけど、明らかに左足の方が筋肉が発達していて太い。これで頭が混乱するとともに自分の感覚のいい加減さを思い知り、そして、50年余りの人生における体の使い方を反省し、体のバランスをととても意識するようになった。今では間違いなく体のバランスが取れてきたことを確信できる。このバランスに関する意識は、恐らく生涯持ち続けると思うので、ひよっとしたら、これが治療の最大の効果かも知れない。そのほか、ボーリングのボールを差し上げての頸椎への大きな負担の説明も極めて明快。確かに仕事におけるデスクワークにおいてもパソコン全盛の時代になった。類人猿の頃からの人類進化の過程で現代ほど頸椎への負担大きくなると誰が予想しただろう。私たちは朝から晩までパソコンと向き合ったまま、まさに頸椎受難の時代である。

そもそも石山先生との出会いは、実は職業別電話帳。いささか古典的な手法で緑ヶ丘カイロプラクティックセンターを探し当てた。お隣の富山県からの転勤者である私は、この電話帳から「上部頸椎」という文言を見つけ、これを頼りに電話を入れた。通い始めたのが昨年の6月13日であった。そもそも最初に頸椎ヘルニアの症状が出たのは、さらに半年以上は遡る。症状はお決まりの右肩胛骨脇の激痛、そして右手の痺れと麻痺。とにかく激しい痛みで眠れない。また、梯子を登ろうとしても右手がしっかり掴んでいることを確信できない、箸をうまく使えないなど、経験者にしか分からない苦しみを味わった（思い出したくもない）。しかも、最初に総合病院へ行き、まずレントゲンから始まり、痛み止めの注射、そして投薬、最後はMRIを使っても悪い箇所、本当の原因は分からず、とうとう完治せずじまい。結局、地獄のような苦痛を背負ったまま、新潟市へ引っ越してきた。まさに地獄で仏（石山先生？）とはこのことだろう。かくして、治療を始めてから1年以上経過したが、案外早い段階で効果が現れた。未だにかすかな麻痺が残っているが、大好きな山登りやサイクリング、ジョギングもこなせるようになった。石山先生には、ただただ感謝。今の通院は、どちらかという体のバランスチェックという感じ。これからも痛みや痺れがあろうが、なかろうが、そして再び転勤族となって旅立とうが、ボディチェックのため、出張の都度、緑ヶ丘カイロプラクティックセンターのお世話になろうと勝手に決めている。この度、待望のホームページが立ち上がるらしい。世の中に五万といるであろう患者さんに朗報が伝わりやすくなるはず。皆さん是非、目からウロコの治療に期待して下さい。必ず直りますから。

岩田英二

**緑ヶ丘カイロプラクティックセンター**